**第 1 7 回庄内南部地区合併協議会
会 議 録**

期 日：平成 1 6 年 3 月 2 3 日（火）

場 所：櫛 引 町 町 民 会 館

第 17 回庄内南部地区合併協議会 会議録

日 時 平成 16 年 3 月 23 日 (火) 午後 4 時 00 分 ~

場 所 櫛引町町民会館 多目的ホール

次 第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

(1) 新市建設計画について

(2) 住民の声をくみ上げる仕組みについて

(3) 新市の名称について

(4) その他

4 閉 会

出席委員等

役職名	区 分	氏 名	役職名	区 分	氏 名	
会 長	鶴岡市長	富塚 陽一	委 員	藤 島 町	町長	阿部 昇司
副会長	羽黒町長	中村 博信	委 員		議長	齋藤 久
副会長	鶴岡市議会議長	榎本 政規	委 員		議員	押井 喜一
副会長	温海町議会議長	佐藤甚一郎	委 員		識見を有する者	富樫 達喜
委 員	鶴 岡 市	議員	委 員	羽 黒 町	識見を有する者	伊藤 忠
委 員		議員	委 員		議長	山口 猛
委 員		助役	芳賀 肇	委 員	議員	富樫 栄一
委 員		識見を有する者	大瀧 常雄	委 員	識見を有する者	呼野 祝二
委 員		識見を有する者	竹内 峰子	委 員	識見を有する者	高橋 澤
委 員		識見を有する者	菅原 一浩			

役職名	区 分		氏 名	役職名	区 分		氏 名
委 員	櫛引町	町長	難波 玉記	委 員	朝日村	村長	佐藤 征勝
委 員		議長	菅原 元	委 員		議長	進藤 篤
委 員		議員	遠藤 純夫	委 員		議員	井上 時夫
委 員		識見を有する者	長南 源一	委 員		識見を有する者	田村 作美
委 員		識見を有する者	前田 藤吉	委 員		識見を有する者	渡部 長和
委 員	三川町	町長	阿部 誠	委 員	温海町	町長	佐藤 正明
委 員		議長	大滝助太郎	委 員		議長	富樫 栄一
委 員		議員	須藤 栄弘	委 員		識見を有する者	齋藤 金一
委 員		識見を有する者	鈴木多右エ門	委 員		識見を有する者	佐藤喜久子
委 員		識見を有する者	鈴木 正士	監査委員		朝日村監査委員	難波 鉄雄
				監査委員	羽黒町監査委員	清野 均	

会長・委員 38名 監査委員2名

欠席委員 なし

出席幹事職員

所 属 ・ 職 名	氏 名	所 属 ・ 職 名	氏 名
鶴岡市総務部合併対策室長	佐藤 智志	櫛引町市町村合併対策室合併対策主幹	佐久間忠勝
〃 総務課長	石塚 治人	三川町企画課長	三浦 久次
〃 調査計画主幹	斎藤 雅文	朝日村市町村合併対策室長	佐藤 靖法
藤島町企画課長兼合併対策室長	半澤 正昭	温海町企画観光商工課長	川畑 仁
羽黒町企画商工課長	金野 和夫		

出席事務局職員

役 職 名	氏 名	役 職 名	氏 名
事務局長	芳賀 肇	調査計画主査	今野 勝吉
事務局次長	佐藤 智志	調査計画主査	鈴木金右エ門
総務課長	石塚 治人	調査計画主査	本間 光夫
調査計画主幹	斎藤 雅文	総務係長	渡部 功
総務主査	成田 弘	調査計画係長	柳生 晃
総務主査	吉住 光正	主事	伊藤 弘治
調査計画主査	土田 宏一		

1 開 会（午後4時00分）

○芳賀 筆事務局長 それでは、定刻になりましたので、ただ今から第17回庄内南部地区合併協議会を開会いたします。

2 会長あいさつ

○芳賀 筆事務局長 初めに、会長よりごあいさつをお願いいたします。

○富塚陽一会長 きょうは大変年度末でご多忙のところを、しかも夕刻時間が迫ったところをおいでいただきまして、誠にありがとうございます。そしてまた事務局それから傍聴の方々も大変ご苦労様でございます。きょうで第17回になりましたけれども、まず会場地の櫛引の町長さんに大変ご厄介をおかけいたしまして、誠にありがとうございます。それにあと専門小委員会随時開催をしていただきまして、所属委員の先生方並びに事務局の皆様にも大変ご苦労をおかけして、改めて感謝申し上げます。

きょうはご案内申し上げましたとおり、新市の建設計画と住民の声をくみ上げる仕組みの問題、それから継続の課題であります新市の名称の三つと、その他何かございましたらという形で運営させていただきたいと思っております。

この新市の建設計画につきましては、先月まで新市まちづくりのビジョンとしてご協議をいただいたものを、前回から建設計画書の体裁でご協議をいただいてまいっておりますけれども、きょうは前回の協議会と専門小委員会でのご意見に基づく修正をそれぞれ事務局でやっていただき、また未記載の部分につきましても新市の施策の中の主な事業とか新市における県事業の推進のところとか財政計画とかというところを加えまして一応建設計画の全部の章節を整えてきょうご提案申し上げます。なお、事務局から説明をいたさせますので、どうぞご協議を賜りますようお願いをいたします。

それから、住民の声をくみ上げる仕組みにつきましても、新市において住民の声を反映していくための一つの仕組みとして、これまでも様々ご発言も頂戴いたしましたけれども、そこでお話になりました地域審議会その他につきましても事務局から説明をさせますので、何とぞご協議をいただきたい。

新市の名称につきましては、引き続きご所見を承りたいというふうなところで、大体きょうは2時間ぐらい、そんなめんどで運営させていただきたいと思っておりますので、何とぞ活発なご論議をいただきまして、ご協力賜りますようお願い申し上げます。冒頭のごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

3 議 事

（1）新市建設計画について

○芳賀 筆事務局長 それでは、早速協議に入らせていただきます。議長のほうを会長よりよろしくをお願いいたします。

○富塚陽一会長 それでは、恒例に従いまして議事の進行に入らせていただきます。

初めに、新市の建設計画についてご協議を願います。

事務局説明してください。

○佐藤智志事務局次長 それでは、事務局の佐藤でございますが、私から新市建設計画の第2次案につきまして、少し時間を頂戴いたしまして、ご説明を申し上げます。

お手元の第2次案をご覧いただきたいと思いますが、ただ今会長からお話のとおり前回の合併協議会でいろいろとご協議いただきました第1次案にそれぞれ所要の修正を加えたものでございます。また、前回未提出となっておりました新市の施策の主な事業でありますとか県事業、それから財政計画、以上の三つにつきまして文案等を作成いたしまして、追加いたしているところでございます。

それではご説明させていただきますが、主な修正箇所でありますとか新たな文案につきましては、それぞれ二重線で見え消しをしておりますし、また下線を引いておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

まず、の序論でございますが、2ページ以降でございますけれども、全般的に表現が難しいあるいは硬いというご指摘がありましたので、文章の趣旨はそのままにいたしまして、なるべくわかりやすい文章となるように2ページ、3ページ、4ページ、5ページとそれぞれ修正を行わせていただいたものでございます。個々の内容につきましては説明を省略をさせていただきたいと思っております。

次に、6ページのの新市の概況、それからちょっと飛びまして10ページになりますが、の主要指標の見通し、この項目につきましては変更点は今回はございません。

それから次に、の新市建設の基本方針でございますが、15ページの1新市の基本理念、それから16ページと17ページにわたっておりますけれども、新市の将来像につきましてもご指摘を受けた点などにつきましてできるだけわかりやすくなるように心がけをいたしまして、修正及び加筆をさせていただいております。

次の3の新市の目標、18ページになりますけれども、ここにおきましては20ページの注の欄でありますけれども、注釈を訂正させていただいております。項目は同じでございます。

それから、21ページ、22ページの行財政システムの再構築のところでございますが、(1)の行財政改革の推進のところでも多少の字句修正を行わせていただいております。(2)市民との協働のところでございますけれども、合併協議会におきまして住民自治ということにつきましてももう少ししっかり盛り込むべきだというご指摘がございましたので、この下線の部分でございますけれども、市民が主役という認識の下で市民の自立した活動の環境づくりを行い、自己決定等の気運の醸成を図るということで3行ほど追加をさせていただいております。

また、前回の協議会におきまして合併のメリットでありますとか次の時代を担う子供たちに夢を与えるような記述が必要であるのご意見を頂戴いたしております。こうしたことにつきましては、これ以降のそれぞれのところでもできるだけ盛り込んで一定程度書き込みをさせていただいておりますけれども、全体的にもそのように読み取りにくいということも事実でありますので、ここを新しく(3)ということで新しい施策の構築と推進という見出しを追加いたしまして、その基本的な考え方を整理させていただいております。内容は記載のとおりでありますけれども、この合併が社会経済の根本的な構造的変化の中で行われるものとし、この変化は地域

の存立基盤にかかわる様々な困難を招来すると考えられるので、新市は合併のメリットを生かしてこうした困難に積極的に立ち向かうという現状認識と決意を表しまして、そのためにこの構造的変化の実態を調査、研究しながら地域の恵まれた資源を一層活用して明るいそして希望の持てる施策を市民とともに強力に推進するという、こうした変化への対応の基本的な姿勢、方策を打ち出しているところでございます。こうした考えの下で施策を展開するということになりますけれども、それぞれの項目のところでできるだけ盛り込んだところでございますし、なお、より具体的なこの施策のところにつきましては、できるだけ内容を整理いたしまして、4月中旬ごろに予定をいたしておりますけれども、住民説明会向けの概要版にはできるだけ盛り込むように努めてまいりたいというふうに考えております。

次の23ページ、24ページの土地利用の方針につきましては、前回と同じでございます。

次に、新市の施策、25ページをご覧くださいと思います。まず文章の部分でございますけれども、これにつきましても個々の説明は省略させていただきましても、前回の協議会でありますとか専門小委員会で頂戴いたしておりますご意見に基づきまして若干の修正、加筆等を行わせていただいております。今回は、前回未記入のままお示しをいたしたわけでありまして、主な事業につきましても案を整理いたしまして、記載いたしておりますので、その考え方などをご説明させていただきます。この主な事業でありますけれども、これにつきましては、これまでもお話ししておりますとおり建設計画自体が各市町村の振興計画を踏まえつつ各市町村からの提案を受け作成しているものでありますので、基本的には各市町村の計画に盛られている、あるいは実施中、今後計画されているソフト、ハード事業ということになるかと思っております。しかしながら、合併後10か年にわたる個々具体的な事業すべてにつきまして現時点で見通しをいたしまして、個々の事業を掲載するということは甚だ困難でありますので、この計画書には主要事業のくくりと申しますか、想定される事業をまとめる意味合いを込めた項目名を掲載することで県と調整を進めております。したがって、各市町村から主要事業の提案もいただいておりますけれども、個々のハード事業につきましては予算枠との整合性という観点から現在いろいろ整理をさせていただいております。一定の整理がなった段階で主要なハード事業につきましてもこの協議会の場にお示しさせていただきたいと思っておりますので、もうしばらく時間を頂戴いたしたいと思っておりますし、おおよそ5月ごろにはお示しができるのではないかとこのように思っております。

それでは、26ページから大まかにこの主な事業について申し上げさせていただきますが、26ページの(1)適正な土地利用では、新市の土地利用計画でありますとか地域振興計画の策定を初め、これは鶴岡市と三川町になるかと思っておりますけれども、庄内地方拠点都市地域基本計画の推進、それから鶴岡駅それから藤島駅周辺地区の整備というものを盛り込んでおります。

次に、27ページの(2)の交通ネットワークのところでは、重要要望事業である庄内空港の運航の拡充、日沿道の整備促進などのほか都市計画道路でありますとか生活道路の整備などを掲げているものでございます。

次に、28ページになりますが、(3)生活環境基盤の整備におきましては、公園

緑地の整備、それから克雪対策事業の推進、上下水道施設の整備を課題としているものでございます。

次に、(4)の情報基盤の整備におきましては、新市の情報計画の策定とともに光ケーブルなどの布設による地域情報化の推進、あるいはケーブルテレビ施設の拡充などを具体的に推進していくものでございます。

次に、30ページであります(1)学校教育におきましては、地域に根ざした特色ある学校づくりでありますとか義務教育施設の整備を、また(2)の高等教育・研究機能の拡充のところでは高等教育研究機関の拡充整備でありますとか支援、あるいはバイオ分野を軸といたしました産学連携基盤の整備を推進していくとしているものでございます。

32ページをお願いいたします。(1)の地域文化の振興では、文化財や歴史的建造物の保存と活用、郷土資料研究の推進などを課題としているものでございます。

(2)の自然環境の保全におきましては、自然の保全と資源を活用した交流事業の活性化、あるいは水族館などが該当するかと思えますけれども、自然学習交流施設の整備などに取り組んでいくとしているものでございます。

(3)の国際交流の推進では、海外友好都市との交流でありますとか草の根の国際交流の推進に努めていくとするものでございます。

次に、34ページであります(1)の農林水産業の振興でございます。この中では集团的営農体制の整備でありますとか中山間地域の振興、売れる米づくりでありますとか複合経営の推進、環境保全型農業の推進、担い手の育成、あるいは地域木材の利用拡大、漁港の整備などを課題として取り組んでいくとしているものでございます。

次の(2)になりますが、商工業の振興でございます。この中では企画開発型企业でありますとか起業家の育成、人材の育成、あるいは商店街の活性化、先端産業の誘致促進などに取り組むとしているものでございます。

次に、38ページをお開き願いたいと思いますが、(3)観光の振興では、広域観光ルートの整備、体験型観光の推進、出羽三山や温泉などの魅力発信に努めるなど誘客の促進を図るとしているものでございます。

次の(1)コミュニティの形成のところでは、住民自治組織、自主防災組織の育成、コミュニティ施設の整備を進めるとしているものでありますし、40ページの(1)総合的な健康づくりにおきましては、生活習慣の改善事業でありますとか保健センターなどの健康づくり拠点施設の整備を進めるとしているものでございます。

41ページの(2)地域福祉におきましては、新市の福祉計画の策定、関係機関とのネットワークの形成、授産施設などの拠点機能の整備を掲げておりますし、また(3)の高齢者福祉、障害者福祉では介護予防、老人福祉、障害者福祉施設の整備などに取り組むとするものでございます。

42ページであります(4)の子育て環境の充実のところでは、新市におきまして次世代育成支援推進法に基づく行動計画の策定、相談体制の充実、保育所等の整備に取り組むとしているものでございます。

次の7の(1)防災、消防関係でありますけれども、ここにおきましては地域防災計画の策定、防災行政無線、消防施設の整備及び除雪機械等の整備などを考えてい

るものでありますし、44ページになりますけれども、(2)循環型社会づくりでは、環境基本計画の策定、ごみの減量化などを課題として取り組んでいくとしているものでございます。

次に、8の(1)生涯学習の推進でありますけれども、地域の特色を生かした学習活動の推進、情報通信技術を生かした学習基盤の整備、図書館サービスネットワークなどを課題として挙げているものでございます。

(2)のスポーツの振興におきましては、地域スポーツクラブの創設、競技スポーツの振興、スポーツ施設の整備充実などに取り組んでまいるとしているものでございます。

次に、47ページ、の新市における県事業の推進であります。これも今回初めて提出をさせていただいております。内容につきましては、これまでの県との協議に基づき整理をいたしましたものでございます。48ページをお開きいただきますと、まず県の役割といたしまして、魅力あるまちづくりでありますとか市町村への権限委譲の推進などが重要との観点から、新市と連携をいたしまして、県事業を積極的に促進をし、同時に一定の財政支援を行うものとしたしております。具体的な事業といたしましては、2の新市における山形県事業といたしまして、(1)の農山漁村整備から(5)の県立病院の整備までその基本的な考え方を整理いたしましたものでございます。これにつきましては、このとおり県のほうから示されているということでございますので、ご理解を賜りたいと思います。

次のの公共施設の適正配置と整備については従前と変更がございません。

それから次に、の財政計画について説明をさせていただきたいと思っております。これも今回初めての提案でございますが、初めに54ページをお開き願いたいと思っております。新市の財政計画につきましては、合併後10か年の財政運営の試算としてお示しをしているものでありますけれども、ご案内のとおり国や地方公共団体の財政状況が大変厳しいということがありますし、また地方への税源移譲でありますとか補助金や地方交付税の改革を柱といたします三位一体改革が進められているという中でもありまして、今後の地方財政制度も大きくさま変わりしていくことが予想されるわけでございます。このようなことから、今回作成いたしました新市の財政計画につきましては、現行の制度あるいは現状を前提とした計画として作成をいたしましたものでございます。

55ページののほうでございますが、歳入歳出の考え方につきましてはでありますけれども、基本的な考え方といたしましては、構成7市町村の決算見込みあるいは財政計画を基本ベースといたしまして、新市における合併効果あるいは国並びに県からの財政支援等を加味しながらそれぞれ費目ごとに計上いたしましたものでございます。

歳入の主なものといたしましては、の地方税の市民税につきましては、現状を基本といたしまして、新市における人口推計値を基に試算をいたしております。

の地方交付税につきましては、先ほど申し上げましたように地方財政制度改革が進められている中にありますので、その見通しは大変難しい状況でございます。これにつきましては、地方財政改革の動向でありますとか合併の加算措置等を見込み試算をいたしましたものでございます。今後三位一体改革の進展によりましては内容を次年度以降につきましても一層厳しい状況になるかというふうに思っております。

の地方債でございますが、これは56ページになりますけれども、歳出の普通建設事業のほうをご覧いただきたいと思いますが、新市における普通建設事業費枠というものを合併特例債事業を含めまして10か年で800億円を計画いたしております。各年度80億円を計上いたしたものでございます。こうした枠を設定させていただきまして、55ページにお戻りいただきまして、この地方債の計上でありますけれども、各年度80億円の建設事業に対する起債の発行額といたしまして、各年度58億円を計上いたしているものでございます。そのほか合併特例債の地域振興基金造成分といたしまして、平成17年度に38億円を計上いたしているものでございます。

それから、臨時財政対策債につきましては、これも制度改正もいろいろ指摘をされておりますけれども、平成16年度の7市町村の見込額と同額の30億円を各年度に計上させていただいております。

次の56ページ、歳出のほうであります。最初に人件費の関係でありますけれども、一般職員につきましては、現在の普通会計における一般職員から10か年で類似団体並みの職員数まで職員を縮減するということを想定いたして計上いたしております。おおよその人数は300人程度削減をするということで計画いたしております。それから、新市の議会議員につきましては、協議結果に基づき計上をいたしております。

それから、普通建設事業は先ほど申し上げたとおりでございます。

その他の経費につきましては、これまでの構成市町村の実績でありますとか、今後の各市町村の計画等を踏まえながらそれぞれ所要見込額を試算させていただいております。

57ページには合併市町村に対する主な財政支援の概要ということで、国からの合併特例債、それから交付税措置、合併市町村の国からの補助金あるいは県からの交付金について記載をいたしておりますので、計算の内容はゴシックでお示しをしているとおりでありますけれども、これらの支援措置に伴う金額につきましても、この財政計画に算入をいたしております。合併に伴いましてこの国の支援内容を十分活用した新市の財政計画にいたしたところでございますけれども、これらの制度を活用したといたしましても新市の財政運営といたしましては余裕があるという状況ではございませんけれども、これらを活用しながら活力あるまちづくりを進めていくことが大変大切なことというような考えで試算を進めたものでございます。

以上のような基本的な認識を踏まえまして、数字的には52ページ、53ページにお示しをいたしているわけでございます。個々の金額の説明は省略させていただきますが、全体的な傾向といたしましては、ご覧のとおり合併後6年度目に当たる平成22年度まででありますけれども、この表の下から3段目が歳入歳出差引額となっておりますが、空欄になっておりますけれども、合併から6年度目までは基金の繰り入れを行いながら大変苦しい財政運営を余儀なくされるという状況でございます。これは、あくまでも現状を基本に試算をしたということでございます。ただ、平成23年度からにつきましては、平成17年度以降漸次合併効果が出てくるわけでありまして、ようやく23年度からは財政運営もそれらによりまして改善をされるということで、形式収支も黒字と申しますか、一定の繰越額が見込まれるという計画内容

になっているものがございます。このことにつきましても、前段申し上げましたとおり国におきましていろいろ地方財政制度の改革を推し進めておりますので、大変厳しい内容かと思っておりますけれども、地方税もこの間10年間で全体といたしましては、これは生産年齢人口が減少するということがありますので、住民税を中心に減少を見込んでおりまして、全体的には4.5%の減といたしております。また、普通交付税につきましても、今後とも段階補正でありますとか事業費補正でありますとか、あるいは交付税総額の議論もあるというようなことも踏まえましてこの間6.6%の減を見込んでおりますけれども、より一層厳しさもあるのかなという感じで見ておりまして、今後より一層歳出の節減に留意をしながら効果的、効率的な財政運営を目指して健全な財政運営を図っていく必要があると考えているものがございます。以上が新市の財政計画の説明とさせていただきたいと思っております。

こうしたことで、現在建設計画、事務方といたしまして、すべての項目にわたりますて内容を提出させていただきました。これらにつきましてさらに今後の合併協議会の場でご議論をいただきたいと思っておりますし、先ほど申し上げましたとおり住民向けのわかりやすい説明資料につきましても、来月中旬以降には作成をしまいたいと思っております。今後こうしたことで進めてまいりたいと思っておりますので、ひとつよろしくご指導を賜りたいと思っております。

以上でございます。

○宮塚陽一会長 建設計画ご提案申し上げます。今までご指摘いただいた部分を丁寧に見直したのではないかとと思いますが、それらについての適否を含めて何なりとご質問、ご意見をお述べくださいますように、どうぞどなたからでも。

それでは、何かご指摘いただいた方でちゃんと直っていますでしょうか。まずその辺でご意見ありましたらどうぞ。特段なければ、その他どうぞ何なりとご質問、ご意見を。きょう別にここで結論つけるわけではありませんけれども、十分今までお読みいただいてご指摘の点もあろうかと思っておりますので、どうぞご遠慮なく。

○大滝助太郎委員 新市の建設計画の進め方でございますけれども、今いただいた資料の中で具体的なものとしては財政計画10年分のが載っているの、かなり具体的なものが出来たなというふうに思いますけれども、しかしながら肝心のところの、財政計画8番ですが、その前の7番目の公共施設の適正配置といいますか、具体的な建設の中身のものが全然載ってこないということになると、やはり具体的な建設計画を論ずることはできないというふうに思いますし、ただ前段のこの文章がこれでいいかどうかということは、私はあまりそれは重要というのか、文章は立派なほどいいわけですがけれども、これは実際の建設とはそんなにかかわりがいいのかなというふうに思います。そんなことで、それぞれの市町村では重要事業リストというものが、実はこれは1,000万以上の事業についてそれぞれの市町村で提出をしているというふうなことなんで、当然のことながら事務当局ではそれらを基に10年間でこれをどういうふうに建設するかということとをそれぞれ検討されていると思うんですが、財政がある程度出てきているので、それぞれの町村で挙げられたものが果たして合計でいくらになるのか。そうすると当然この財政に合わせてこの計画の何割ぐらいが実行で

きるかということで、ここで全部お示しする前に、例えば50%の財源しかないとすれば当然その見直しをやってさらにそれをもう一度全体の中で計画をするというふうなことになると思うんですけれども、今回ここには具体的なそういう建設内容が出ていないというふうなことで、この建設計画というのはどんなふうにこの協議会では進めようとするのか。今載っているこの資料でこれにご異議がなければ建設計画はこれで終わりだと、こういうふうな運びになるのか、あるいは今後その具体的なそれぞれの市町村での建設計画を基にした10年間のものを出して、それを検討するようになるのか、まずこの辺のところをご説明お願いしたいと思います。

○**富塚陽一会長** まず、事務局どうぞ。

○**佐藤智志事務局次長** 個々具体的な事業が見えないというご指摘でございますけれども、このことにつきまして先ほどお話もさせていただきましたけれども、現時点で例えば各市町村においても10か年間の確たる事業リストあるいは事業費、それから優先順位、これをすべて持っておられるかということになりますとなかなか難しいのではないかと思いますけれども、同じように合併協議会におきましても現時点で10か年の個々の事業をすべて優先順位を、あるいは緊急性ですとか必要性ですとか、あるいは事業費等につきましてすべて精査をして財政計画をきっちりまとめるという作業につきましては甚だ困難なのではないかということをご想定させていただきました、この財政計画のほうには年間80億、トータルで800億、これは特例債事業を含めましてそうした事業枠を設定させていただいたわけでございます。できればそうしたことについて個々の事業をお示するというのもよろしいわけでありまして、ただ今申し上げたようなことでなかなか難しい面があるということでございます。

ただ、私も今市町村にお願いしておりますのは、各市町村で今後10か年で想定をされておられる事業があると思いますので、それにつきまして優先順位をつけて事務局のほうに提出いただきたいということをお願いさせていただいております。それを受けまして、幹事会あるいは助役会議等の機関会議がございますので、その場で全体として合意できる事業枠、それから事業内容、優先順位というものを協議いたしまして、一定程度整理した上、5月ころになるかと思いますけれども、この場にもそうした個々の事業内容というものをお示しできるようにしてまいりたいというふうに考えておりますので、ただ今のご指摘はごもっともでございますけれども、今しばらくお時間を頂戴させていただきまして、調整を進めさせていただきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

○**大滝助太郎委員** そうすると、きょうここで協議するというのは、何を協議するのかわからないんですけれども、ただ文章これでいいかどうかということをするのか。建設計画というのは具体的なものですから、やっぱりそれがこの協議の場に全然出てこないとなると、これはあまり重要な会議でないというふうに思うんですけれども、これはやっぱり最終的には何をどう建設するのかということが出てこない、私は計画にはならないと思いますけれども、会長さんいかがですか。

○**富塚陽一会長** 大変ごもっともなご意見ですが、まず一つ今事務局もちょっと少し前段の話が長すぎるけれども、要するに詰められるだけ具体的に詰めるというんでしょう。財政の規模の範囲内でこの項目によって大体イメージはあるわけですので、重要事業とかあるでしょう。この間大滝さんもお指摘ありましたように、駅前といえば藤島と私のほうなんていう話がありましたけども、そのようなことでイメージはあるわけなので、それを少し具体的な数字の裏づけを今事務局でお願いをしているというような答弁でしょう。

佐藤智志事務局次長 ただ今その作業をしております。

○**富塚陽一会長** それで、まだきょうは決められないと思います。ただ、これに何入ったと聞かればもっと答弁させますので。

○**大滝助太郎委員** 会長、結局財政計画があるということは、お金はもう決まっている、これ以上出ないわけですから、その範囲で何をするかということは当然決めていかなないと、事業によってお金がどんどんどこからか降ってくるのであればこれはいいわけけれども、お金は決まっているわけですから、あとは今の計画をどこまで例えば縮小するとかいろんな作業を、これは合併する前はもう雲の上に上げておくと、こういうふうに聞こえますので、これはやっぱりいいのではないですか。そうすると協議会で何するかということが、これあまり意義がない議論で終わるのではないかというふうに思います。

○**富塚陽一会長** 誠に大変手厳しいお話ですが、ただ大滝先生からもご承認いただきたいんですけども、この財政計画もこれ仮定を置きながらの計算なものですから、これで絶対神様でなければわからないような数字に入っているもので、一応こういう推定でこういう計画で財政の枠を決めてもいいのでしょうかということをご相談申し上げている趣旨だと思いますので、これでまず仕方ないのではないかとるところでそれにひょうそくを合わせて積み上げるという作業をきつとするんだろうと思います。事務局その辺はっきりしないと、財政計画をここでどうするのか。一応こういう計算で財政規模を大体概定しましたので、どうでしょうというようなお諮りもしている趣旨と何とかご理解いただくとありがたいんですけども。まずそれでやってみると、こういうことで一応やってもらっていいと思いますので、ご所見はご所見として、この枠内でひとつ検討するということがいいのでしょうか。

○**大滝助太郎委員** 会長さん、それぞれの市町村で例えば10年間で優先順位をつけてこれだけはやってもらいたいということ出ているわけですから、そうすると例えばこの財政計画でいえば何番まではいつまでにおおよそこれですよというものがやっぱり出るのが私は当然だと思います。私そこを言っているんです。お願いします。

○**富塚陽一会長** それはひとつやってください。これからやるということをお答弁して

いるようですので。ただ、枠今ここでやっぱりお墨つきをもらいたいということで出したのだから、お墨つきくださればそれを前提として計算をしてもらうということですが、じゃそれでいいでしょうか、そんなようなことで。だれにしたってこの計算の仕方なんていうのはとんとわからないところもありますので、概して専門家として検討はしたんだと思いますので、おおよその枠としてご了承いただければご了承いただいて、その上で少し今次長が言うようにこれをまず前提としていろいろ各市町村から提案した事業を割りつけてみるという作業をしてみると、こういうことだろう。

佐藤智志事務局次長 はい、そうです。

○富塚陽一会長 それは大滝委員のご注文にも合うわけだから、いいのでしょうか、大滝委員さんそれで。

○大滝助太郎委員 そういうふうにしてひとつ提案をしていただきたい。

○富塚陽一会長 はい、わかりました。

○大滝助太郎委員 そうでないと、ここで協議したことがあまり役に立たないと思いますので、ひとつよろしくお願いします。

○富塚陽一会長 わかりました。項目だけでもその中にほとんど全部提案の事業は含まれているはずだとは思いますが、落ちこぼれがないかということの確認だと思いますけれども、なければそれでよろしいと思います。30日まで間に合うか。ちょっとやっぱり出ないかもしれないな。

○佐藤智志事務局次長 主要事業につきましては、先ほど申し上げましたとおり各市町村から今優先順位をつけて出していただくようお願いしているという段階でございまして、調整までにもう少しお時間を頂きたいということで、できるだけ急いで出したいと思っております。

○富塚陽一会長 一生懸命やっているようだからひとつご了承をお願いいたします。ほかにどうぞ。

なければ、まずこんなところで作業を進めてみると。もちろん財政の見通しもいろいろあると思いますので、その辺はまた部分的に手直しなどもあるかもしれませんが、この次まで間に合わないかもしれませんが、引き続きこれは検討課題として残させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、本件についてはきょうはこれで一応次に残していくことでよろしゅうございますか。

(「はい。」という声あり)

○富塚陽一会長 じゃ、そのようにさせていただきます。

(2) 住民の声をくみ上げる仕組みについて

○富塚陽一会長 次に、住民の声をくみ上げる仕組みについてというテーマです。事務局提案してください。

○石塚治人事務局総務課長 お手元の住民の声をくみ上げる仕組み、1ページ目が横になっている資料でございます。これまでの合併協議会で何度か委員の方々から、住民の声をくみ上げ行政に反映させていくためのものというようなことで、地域審議会などについてご発言、ご意見があったところでございます。本日改めまして地域審議会の設置についてご議論をいただきたいということで議題として取り上げさせていただいております。それに合わせて資料も提出させていただいたところでございます。

1ページは、現在各市町村で実施されております住民の声をくみ上げる仕組み、その現状につきましてまず一番上からですが、審議会の場における将来構想や重要事業についての意見といったようなものから、下のほうにあります住民個々の自由な意見や困り事相談、そういったようなものまで住民の声のレベルごとに整理を試みております。

一番上の段、将来構想や重要事業についての意見を聞くものとしまして、各市町村とも総合計画審議会とか振興審議会、こういったものを持っております。

次には、道路や側溝など地域の周辺環境や集会所などの施設整備、また地域づくりについての意見、要望を聞くものとしまして市長と語る会や町長と語る会などを地区単位や集落単位で直接住民と対話する場が設定されるといったようなこともございます。

次では、環境美化だとか公害対策等そういったようなものが多いようではありますが、生活環境の改善やコミュニティへの支援などそういった要望、意見を聞くものとしまして町内会連合会、駐在員連絡協議会、区長会、そういった自治組織との会議を設定したり、陳情を受けるといったようなことが行われております。

次では、まちづくりのための創造的な提言を期待するとともに人材育成もねらったといったようなことでは、主に若い層を中心にしたまちづくりの委員会、そういったものも設置されております。

次では、女性の関心、参加を高めるための機会を設定している町もございます。

その下では、住民の個々の自由な意見、要望を提言はがきやホームページを通じて収集しているというものでございます。

一番下は、住民個々の具体的な困り事や苦情などについて役所、役場の各部署の窓口、また総合相談窓口、そういったようなところで相談を受けてその解決を図っているといったようなものでございます。

現状のこういった仕組みですが、合併して広域化するといったような場合、当然行政システムは変わるわけでありましてけれども、その役割だとか実施方法、そういったところでは基本的な検討が当然必要になるとは思いますが、ある程度新市でも有効なものあるいは参考になり得るものというふうに考えております。

このような現状の仕組みを一番右の新市での検討の欄というところでちょっとは

め込んでみたわけでありませうけれども、そうした場合に現在の市町村の区域といったようなことで見れば、それぞれの区域の将来構想だとか重要事業についての意見をくみ上げるといったようなところではすき間が空いてしまうのではないかというようにも思います。それぞれの地域の将来構想や重要事業といったことについては、やはり合併後の一定期間は現在の市町村の区域の視点での意見を反映するための場が必要であろうと思うわけでありませうけれども、その役割を地域審議会が受け持つことではどうだろうかということ整理をしたところでございます。

2 ページが、ただ今1 ページのところでも申し上げましたことを書き表したものでございませうけれども、最後の4 行のところ、「将来構想や重要事業について住民の意見を反映するためのものとしては、全市的な総合計画審議会の設置が見込まれるが、合併後一定期間は、このようなことについて、合併前の区域の視点からの住民の意見を得るためのものが必要と考えられる。」としたところでございます。

3 ページにまいりまして、地域審議会設置の検討としまして、事務局としましてこんな地域審議会ではどうだろうかというようなことでたたき台として考えてみたものでございます。

(1) の設置区域では、7 市町村の区域ごとに地域審議会を設置することで考えたところでございます。

(2) の設置期間は、一体性の速やかな確立という観点に立ちまして、また合併後5 年以内という相違点調整の経過措置もありますことを念頭に置きまして、合併年度の残期間と平成22 年3 月31 日までのおおむね5 年間ではどうかとしたところでございます。

(3) の所掌事務としましては、市長の諮問に応じて審議する事項としまして、アの新市建設計画の変更に関する事項、これが合併特例法に明記されている事項でございます。イで新市建設計画の執行状況に関する事項、ウで当該区域を単位とする地域振興のための基金の運用に関する事項、これは合併特例債を使って造成する地域振興基金でありますけれども、この基金を使って当該区域の振興を図るといったような場合には、それについても審議をするといったところでございます。エの基本構想及び各種計画の作成及び変更に関する事項ということでは、新市にあって策定することになると思います新市の総合計画、そういったところでございます。それと、オとしましてその他市長が必要と認める事項でございます。イの必要と認める事項について、市長に意見を述べることができると、この一文は合併特例法にある条文そのままでございます。あらかじめ今現在特定するといったような事項はないものでございます。

(4) の組織及び委員は、各区域に住所を有する公共的団体等を代表する者及び学識経験者の委員15 人以内で組織するとし、任期は2 年と考えたところでございます。

4 ページは、合併特例法における地域審議会に関する条文の抜粋と若干の整理をしたものでございます。下のほうで1 の設置根拠では、市町村の協議により期間を定めて市町村の区域ごとに当該区域に係る事務に関し市長の諮問に応じて審議し、または必要と認める事項につき市長に意見を述べる地域審議会を置くことができるとなっておりますし、2 の組織及び運営の(1) で構成員の定数、任期、任免その他の地域審議会の組織及び運営に関し必要な事項については、市町村の協議により定めると

なっておりまして、地域審議会の設置またその内容は市町村の協議によるといったことになるものでございます。

また、3の市町村議会の議決のところですが、上記1及び2の協議については、市町村の議会の議決を経るというものでありまして、7市町村全部の議会議決が必要なものでございます。

4の役割ですが、(1)の方は申し上げておりますけれども、(2)で新市建設計画を変更しようとするときは、市長は、あらかじめ地域審議会の意見を聞かなければならないということでありまして、これが先ほど3ページで申し上げました想定在所掌事務のうち唯一合併特例法において具体的に明記されている事項でございます。これまでのところが地域審議会ということでありまして、これまでの合併協議会の議論からはこの地域審議会が主眼にあるものと思っております。

5ページ以降のところでありまして、合併協議会でこれまで地域審議会という議論でまいっておりますけれども、国会で現在審議中でありまして、三つの法律案から制度創設が見込まれます合併特例区と地域自治区に関する部分を抜粋したものが5ページ以降でございます。制度が創設されればこれらも選択肢にはなり得るものでもありますので、本日参考まで資料を提示させていただいております。

若干概略を申し上げます。まず5ページでありまして、新しい合併特例法でございます。1のところでは合併特例区のことですが、合併後の一定期間、5年以下ということでございますが、一つまたは二つ以上の合併関係市町村の区域であった区域を単位として特別地方公共団体である合併特例区、法人格を有する、を設けることができるということになっております。(1)の設置手続で合併関係市町村の協議でとなっておりますことは、地域審議会の場合と同じでございますし、ここには書いてありませんけれども、各市町村議会の議決も同様に必要なものでございます。合併特例区が処理する事務につきましては、(2)で合併関係市町村において処理されていた事務であって一定期間合併特例区で処理することがその事務の効果的な処理に資するものといったことになっておりまして、その下に若干例示があります。また、合併特例区には(4)にありますように合併特例区協議会が置かれるものでございますが、構成員は合併市町村の長が選任するというものでございます。権限は にありますように相当に強いものとなっているようでございます。

6ページは、今庄内南部の合併協議会も協議を進めておりますけれども、現行の合併特例法の改正でございます。現行法に基づきこれから合併する、あるいは合併した市町村でもただ今申し上げました新法と同様の合併特例区を設けることができるというところでございます。内容につきましては、先ほどのものと同じということでございます。

7ページは、地方自治法の改正でございます。地域自治区の制度でありまして、1の(1)で地域自治区とは、地域の住民の意見を行政に反映させるとともに行政と住民との連携の強化を目的として、市町村の判断により設けられる区域であり、その区域の住民のうちから選任された者によって構成される地域協議会及び市町村の事務を分掌させるための事務所を置くものということになっているようであります。(2)で、市町村が、条例で、その区域を分けて地域自治区を設けるということでありまして、地方自治法では市町村合併との関係は規定していないわけでありまして、6ページにお戻りいただきまして、6ページの現行の合併特例法の改正であり

ますけれども、2のところでは地域自治区の特例、これはまた一つ前に戻らなきゃいけないわけですが、5ページの新法のほうであります、新法の2の地域自治区の特例のところにありますように、合併に際して一つまたは二つ以上の合併関係市町村単位で地域自治区を設ける場合には、合併と同時に地域自治区を設けるといったような場合でありますけれども、合併特例区の場合と同様に市町村の協議で設置を決定するということになっているものでございます。一応制度としてできる見込みであるというように紹介させていただきました。

ちょっと余計なことかもしれませんが、合併特例区と地域自治区の両制度とも新市の速やかな一体性の確立だとか合併の意義の一つでもある行財政の効率といったようなところとはある面では反するところもあるのかなというような感じを、私どもとしては感じているところでもございます。まず、これまでの地域審議会のご意見、ご発言ございましたので、地域審議会を中心にまとめさせていただいた資料と、あとここに来まして新たな制度も提起されているようでありますので、そういった資料を出させていただいております。合併協議会での議論を経てまた細かいようなところも検討させていただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

○富塚陽一会長 これまでも地域審議会のことにつきましてご意見いただきましたけれども、なおそのご意見を踏まえて少し中身の研究をして資料を整えたようであります。今説明したことをめぐって、何なりとどうぞご質問なりご意見なりをお出しください。

○富樫栄一委員 羽黒の富樫でございます。よろしくお願いいたします。

住民の声をくみ上げる仕組みということで、新市での検討ということで、その中で住民個々の重要な意見、要望ということで提言はがき、またはホームページというふうに記載されております。そこで、最近南部地区合併協議会も1年5か月経過したわけでありますけれども、なかなか若い世代の方々からこういった協議会の情報を把握するのが不足しているというような声も聞かれますし、そういった面からインターネットによりそういった若い方々の積極的な意見を組み入れると、そういうような方向で進めているのかどうか、その辺まず第1点と、それからもう一点でありますけれども、ただ今説明ありました地域審議会、それに住民自治協議会ですか、これは大変特に町村にとりましては地域審議会というものは非常に大切であるというふうに思われますし、またそれと同様に最後にありました住民自治協議会、これも特に町村におかれましては非常に大切な組織になるんじゃないかというふうに思われます。と申しますのも、やはりこういった広域的な合併になりますと、特に私ども町村におかれては住民の声が中央に届きにくいと、そういった傾向が多分に予測されるんじゃないかというふうに思われますし、そういった面を解消するためにも、やはり私はこの地域審議会と並行して住民自治協議会、これもこの協議会で皆さん方から協議していただきたいというふうに思いますので、その辺よろしく願い申し上げます。

○石塚治人事務局総務課長 最初のインターネットで若い人を中心に声を吸い上げるというようにありますけれども、今現在各市町村ともそれぞれのホームペー

ジのところでは合併についての意見の収集といったようなことは行われております。やはり合併協議は市町村の協議が基本でありますので、合併協議会というよりもむしろそれぞれの市町村の住民の方々がそれぞれの市町村のほうにおっしゃっていただくのが一番いいのかなと思います。鶴岡市の場合も、同様にそういったようなことでやっておりますけれども、それほど多くはありませんが、いくつかやはり来ております。多分それぞれの町村のほうにも住民の方々からインターネットを通じてメールというようなことでありましようけれども、あるかと思えます。そういったようなことは、やはり引き続き力を入れながらやっていかなきゃいけないなというふうには思いません。

あと、地域審議会とその他富樫委員おっしゃるところがもし先ほど5ページ以降でお示した制度ということであるとするならば、今のところ法律をちょっと読んでみても特別地域審議会とそういった自治区だとか合併特例区がバッティングする制度ではないようでありますけれども、現実的には両方もというわけにはまいらないんじゃないかなと思います。やはりこの庄内南部の新しい市において、こういったものが一番いいのか、そういった議論を皆様からしていただいて最善のものを採用していくべきものと考えております。

○富樫栄一委員 わかりました。それで、やはりインターネットによる若い方々からのそういった意見は大いに積極的に進めていただきたいというふうに思いますし、また並行して地域審議会と住民自治協議会ですか、ちょっと法的に無理であるというふうな今事務局のお話ありましたけれども、そうしますと私の考えでありますと、やはり暫定的な5年の地域審議会よりも恒常的な組織のできる住民自治協議会のほうが、将来の財政をかんがみただけでも決して財政負担にはむしろならないというふうに思いますし、これから合併そのものが受益者負担も取り入れながら取り組んでいかないと、ただ各自治体が一つの広域的な自治体になりましても、同じような財政の繰り返しであるというふうに思いますので、やはり自分たちの地域は自分たちで守っていくという、そういった啓蒙をするためにも、住民自治協議会というものは非常に大切であるというふうに思いますので、私一人意見を言っても無理でありますので、皆様方から協議のほどをよろしくお願い申し上げます。

○富塚陽一会長 ありがとうございます。今の事務局は何かありますか。

○石塚治人事務局総務課長 当然委員の皆様のご議論になろうかと思えますけれども、地域審議会を期間限定で5年というようなことではどうかということを出させておいてあります。あくまでも合併後一体性の確立までの間にやはりある程度地域の視点そういったものが必要だろうというようなことで提案をさせていただいております。やはり新市で早いうちに一体性を確立していくといったようなことでは、恒常的なそれぞれの地域でのものということではなくて、また別に既存の方法であるとか新しい方法で住民の声を吸い上げまた反映していけばいいのではないかというのが私どもの今回の資料提出のところでの考えでございます。あくまでも合併後の一定期間合併に際してというような考え方で今回出させていただいております。

○富塚陽一会長 よろしいでしょうか。

○進藤 篤委員 朝日村、進藤です。今の地域審議会の件に関しては、第一小委員会でも前々から話題になっておりまして、極端に言えば最初から最後まで話題になったというようなことをございまして、今回このように原案提示されたということは非常に良かったなと思っております。合併によって住民の声を吸い上げるためにも、今までも振興審議会あるいは総合計画委員会とかそういうたぐいのものがあつたわけですが、それらがやっぱり合併によってなくなるということは非常に住民にとっても不安であるし、また行政サービスをするにとってもこれは欠くことのできないものだろうなというふうに私は思います。そんな意味で、この地域審議会の設置に関しては非常に前向きに捉えております。

ただ、いろいろ今の要項に示されておりますけれども、私はただ一つおおむね5年間という期間設定があるということは、ちょっとこれはおもしろくないなということをございます。先ほどの財政計画なんかを見ましても、合併特例債は10年間続くわけですし、それぞれの具体的な裏づけの事業もそれによって続いていくわけですので、何とか旧町村の中での見届けといえますかそういう計画をやっぱり続けて、5年ではちょっとあつという間だというような気がします。いろいろ日本全国で今の合併も進んでいるわけですし、地域審議会を設けているところは余計はないようだけれども、やっているところでの期間設定を見ましてもほとんど10年ということが言われておるようですので、5年ではちょっと短いのではないかと、せめて10年は欲しいもんだなと私は思いますが、この辺に関してひとつ考え方を伺いたいと思います。

○富塚陽一会長 ありがとうございます。今のに事務局答弁できますか。

○石塚治人事務局総務課長 進藤委員おっしゃるとおりこれまでのところは10年というところがやはり多くなっております。5年というところもございます。10年間か5年間かどちらかというようなことのようにあります。まず私ども考えましたのは、やはり合併に際してというようなところでありまして、まず5年ではどうかということであります。事務事業調整をかなりの数行っていただきましたけれども、そのあたりのところが一部5年超というのもございますが、経過措置の長いので5年ということにもなっております。そのような観点からもまず5年ではどうかというようなことも考えたところでもあります。そのあたりの期間的なところは委員の皆様にご協議をいただきたいというところでもあります。

○富塚陽一会長 進藤さんのご意見よくわかりますので、ここは5年でも10年でも、5年が足りないということであれば10年もやぶさかでないということであると思っておりますので、ご所見承ります。ありがとうございます。

どうぞほかにありましたら。

○本城昭一委員 法律でこの地域審議会を設置することができるというふうにあるわ

けですから、設置することに反対するものではありません。ただ、こういうふうに資料を添えて具体的に出てきたのはきょう初めてであります。したがって、私どもの議会にもこの進め方、この考え方について説明しないと、鶴岡市議会としての意思表示はなかなかできないと、そういう経過はおわかりいただけるだろうなというふうに思います。ただ、ここでの話し合いを持ち帰って議論するという、そういうこれからの進め方なのか、きょうここで方向性を出していくのかと、それによってまたいろいろ違ってくるわけですので、私としてはこの資料等を持ち帰って十二分に議論をしたいと。このことについては鶴岡市議会は疑問を持っている人も多いんです。ですから、説得するためにも十二分に議論をしなきゃならない問題だなというふうに思っておりますが、私帰って説明するために二つほどお聞きをしたいと。この中で、設置要項ですか、ここに設置区域として7市町村ごとの区域とこういうふうになっております。鶴岡市の場合は、この審議会をどういう位置づけでやっていくというお考えでこの7市町村という考え方を事務局がされたのか、その辺の議論の経過と、それから置くことができるということですから、やはりこれは必要だと、設置すべきだと、こういう議論を首長会あるいは運営小委員会でやられたのではないかと、でなきゃこういう資料が出てくるわけがないわけですから、その間で設置が必要だという結論に達した説得力のある見解をお聞きしたいのです。私持ち帰って委員に説明するために、抽象的じゃなくて説得力のある必要性についての見解を、これは会長から聞くとやっぱり八百長になりますので、会長以外の首長さんからそういう見解をお聞きしたいというふうに思うのです。その2点をひとつよろしくお願いします。

○宮塚陽一会長 最後のほう、私言ったのだから私答えます。これはきょう中結論というつもりでお出ししているわけでありませぬので、これからも十分議論いただきたいと思ひますし、各市町村におかれて議会でご相談なさるのは当然あるだろうと思ひますので、どうぞよろしくお願ひをいたします。十分これから回を重ねて、特に今まで地域審議会のお話がありましたけれども、きょう事務局が説明したとおりまだ法案通らないのだけれども、特別区とかまた変わったの出てきたものですから、その辺の含意もまだ政省令もはっきりしなくて事務局でもつかんでいないようですけども、一応比較検討の議論は必要なのではないかなということ、きょう事務局で特別区とか後ろのほうの3枚、自治法の改正だとか様々提出していると思ひますので、そういうことの含意もありますので、これから少し時間をかけて議論していただくようにということでお願ひ申し上げたいと思ひます。

それから、地域審議会のごとは市町村長会議で私言ったのです。私言ったので、ほかの町村長さんに言えと言うと怒られるので、私答えますけれども、一応これ地域審議会の合併に関する論議なわけなんで、それに類する総合計画審議会とかというものもありますけれども、合併というやや一般論というよりも行政手続論みたいなものも入るもんですので、幾分テーマの専門性が違ったりする場合もあり得るので、鶴岡でもいらぬのかということ、をちょっと事務局に言っただけで、いらぬとすればいいのだけれども、いるとすればやっぱりいると書いたほうがいいのではないかとこのように私は言ったので、あと事務局答弁してください。

○石塚治人事務局総務課長 具体的に何か一つ申し上げれば、例えば建設計画の事業がこれから出てまいった場合に、それぞれの区域の事業の執行状況がどうなのかといったようなことになるとすれば、当然鶴岡市の区域で行われる事業もあるわけでありますので、そういったものはある程度鶴岡市だけの地域審議会でも議論をすることはあるだろうというようなことで考えております。それが鶴岡市の分はすべて総合計画審議会のほうに行けばいいということではないのではないかとこのように思います。

あと、先ほどちょっと説明の中で強調もしておりませんでしたけれども、仮に七つ全部につくる、または七つのうち二つとか三つとかにつくると、そういったようなことも考えられるわけでありまして、いずれにしても7市町村それぞれの議会での議決が必要になります。ですから、そういう意味では本城委員おっしゃるようにそれぞれの議会に持ち帰っていただいて十分な議論をしていただかないと、これは成立しないというようなことになりますので、今回は持ち帰っていただいてそれぞれの議論を十分していただくということになるかと思っております。

○富塚陽一会長 というようなわけで、いらないとすればいらなくてもいいのだけど、まずとりあえず合併に関する審議事項というのはやっぱりあるのでないかなということでも申し上げたので、よろしくお願ひいたします。

○押井喜一委員 藤島の押井ですけれども、ただ今地域審議会というようなことでもいろいろご意見出ていますけれども、この件につきましても私も藤島の議会においても一定の姿ということで議論しているわけではなくて、むしろこの合併の姿はどうあるべきかということで議論になってきた経過がございます。ですから、事務局から説明があったできるだけ効率的な行政、一体感を早く持たせるといふような合併もあるでしょうけれども、またこの中にいろいろ地域住民と行政との協働ということで、住民主体の地域づくり、そういった視点も考えた上でこの地域審議会というものについて議論してほしいというふうに思っています。

私個人的には、そうした中で特色ある地域をつくるためには、そうした制度をきちっと作りながら合併というものをすべきではないかというふうに思います。でないと、行政主体、地域住民という視点からかけ離れた行政というものがなされていくのではないかということが心配されるというふうな意味でも、やはりこれからの新しい時代の中で合併であっても地域内分権というふうな言葉も出ていますし、そうしたことをもっと真剣に考え、受け止めながら議論すべきでないかなというふうに思っています。ですから、先ほど朝日の議長さんからも言われたように、5年間という期間でなしにそうした制度をきちっとすることも考慮すべきでないかというふうに思っています。ただ、今この時点でこの地域審議会をどうするというにはならないというふうに思います。やはり我々も持ち帰りいろいろ議論しながらこれから作り上げていきたいなというふうに思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

○富塚陽一会長 ありがとうございます。今の件で事務局何か言うことありますか。

○石塚治人事務局総務課長 特段ございませんけれども、そういったことでまた検討

させていただきたいというふうに思います。

○**富塚陽一会長** ありがとうございます。

○**須藤栄弘委員** 地域審議会ですが、これ新市のまちづくりビジョンの中の市民との協働という中でうたわれておるわけですし、このビジョンの中のものがこのように具体的に出てくるということは大変結構なことだと思っております。合併前の懸念を払拭するとかあるいは住民と行政の距離というふうなこともございますし、ぜひ進めていくべきものと思います。この地域審議会と支所の役割というのはおそらくリンクするものでないかなと思っております。この辺の関係をちょっとどのように考えておられるか、支所の役割と地域審議会の位置づけということでひとつお願いいたします。

○**石塚治人事務局総務課長** 地域審議会をどういった地域審議会、またどういった本所、支所制度、そういったものはやはりおっしゃるとおり非常に関連が深いものだと思います。具体的な支所といったような組織機構はこれからということになります。地域審議会の協議も今回だけということでもないと思いますので、そういったことも合わせてご意見を頂だいしながら検討させていただきたいなというふうに思っております。

○**富塚陽一会長** 須藤さん、いいですか。

○**須藤栄弘委員** 当然支所の中にまちづくりや地域づくりに取り組む部門ということでこれもビジョンの中にうたわれておるわけでありまして、これらについても十分な検討が必要かなと思います。

○**富塚陽一会長** ありがとうございます。

ほかに何かありませんでしょうか。

(「なし。」という声あり)

○**富塚陽一会長** それではまた、くどくなりますけれども、法律も多分通るのでないかなんていう話もありますので、法律の通ったところでまた政省令とかいろんな調査をして、これはどういうのだという説明も一応ご披露しながら、またきょうお話がありましたように各市町村におかれては議会とのご相談もあるというようなお話もありますので、それらのご検討も踏まえた上でさらに検討を重ねていきたいと思っておりますので、本日はきょうはこの程度でよろしいでしょうか。

(「はい。」という声あり)

○**富塚陽一会長** それでは、これはまた引き続きご協議を、いろいろご意見はご意見としてちゃんと記録しておいてください。ありがとうございます。

(3) 新市の名称について

○**富塚陽一会長** 続いて、前回いろいろご意見も承っておりますが、引き続きまして新市の名称について議題とさせていただきます。

これも前回同様に公募のお話とか様々お聞きしましたので、十分そこは承っておりますが、ほかに何かご意見ございましたらどうぞ。きょうのところは何もなければ、またこの次議題とさせていただきますので…。

○**井上時夫委員** 朝日の井上でございます。公募の話が出ていつも流れるようでありますので、議員定数のように例えば仮称でありますけれども、新市の名称検討小委員会などを設けてひとつ検討してここに出してもらおうというような方法はどうか。

○**富塚陽一会長** 協議会の中にですか。

○**井上時夫委員** はい。

○**富塚陽一会長** そういうご提案がありますが、何か今のご意見についていくらかご意見をお聞きして、いずれ運営小委員会でまた詰めさせていただきたいと思いますが、どうぞ何なりと今のご意見についてご発言ございましたらどうぞ。

富塚陽一会長 なければ、この会の運営につきましては、ルールとして運営小委員会でご検討願って、その上で本協議会にお諮りをすることにしていますので、次回の運営小委員会で協議させていただきます。ありがとうございました。

ほかに何かなければ、この次またテーマにさせていただきますので、きょうはこれでこの件につきましてはよろしいでしょうか。

(「はい。」という声あり)

○**富塚陽一会長** ありがとうございます。

(4) その他

○**富塚陽一会長** その他ですが、どうぞ何かその他ありましたらどうぞ。

○**本城昭一委員** その他になるかどうかわかりませんが、去る3月7日のこの会議だと思いますが、私第二小委員会の委員長でありますけれども、事務局から第二小委員会の協議状況報告があったと思います。新入学児童ランドセル贈呈事業というのが私どもの調整項目の中にあっただけであります。資料を皆さん方にお配りしてありますように、これは結論を出せる状況ではなかったのです。現在実施しているところが3町村、未実施が4市町ということもありまして、これは反対、賛成それぞれの経過がありますから、調整ができませんでした。したがって、その報告をすると、この中

からそのことについての意見が出てくるのではないかなという期待をしながら事務局でこの報告をしたところでありますが、全然意見がなかったもんですから、私ども第二小委員会でどういう調整になるのかなという心配をしています。これは大きな問題です。これはやっぱり基本的には新市の少子対策の考え方の問題もあるでしょうし、あるいはここに書いてありますとおり新しく一生に一遍入学するのだから家族ぐるみでお祝いしてランドセルを買ってやろうという、そういうものもあるわけです。あと入学のとき教育委員会からランドセルが一樣のものが届くのは教育的にはどうかという、そういう考え方もあります。したがって、そのような意見が皆さん方から出てくるのではないかなという期待をしたわけでありますが、それがなかったわけでありますので、これが今後どういうふうに調整され処理されていくのか、これ委員長として確認しておきたいと、こんなふうに思ったもんですから、あえて資料を添えて意見を申し上げたところであります。よろしくお願いします。

○**富塚陽一会長** 事務局にお尋ねという...

○**本城昭一委員** はい、あと意見あれば。

○**富塚陽一会長** 直接のお尋ねは事務局ですので、まず事務局お答えください。

○**佐藤智志事務局次長** それでは、考え方ですけれども、第二小委員会で二つの意見に分かれたということで、存続すべきということと廃止すべきだという方向、二つの方向が出されたわけでございますけれども、これについてただ今小委員会の委員長さんからお話ありましたとおりさらにこの場でご意見があれば出していただきたいというようなことで考えておりますし、またこれからも各市町村でそれぞれの住民説明会等入られるかと思っておりますけれども、その場でまたいろいろご意見があるのかなという感じがいたしますけれども、なお専門小委員会でこういう二つの方向が出されて、それを全体合併協議会の中でもまず現状としてはやむなしということでの追認をいただいたということであれば、この結果についてこれからまた合併協議会の中でいろいろ議論をしたりあるいは住民の中にいろいろご意見をお伺いしたり、各市町村議会でご意見をいただいたりというようなことでまた議論を重ねていって、最終的にこの合併協議会の中で一つの方向に集約なればそれはそれでよろしいかと思っておりますけれども、最後までこういった方向であるということであるとすれば、最終的には市町村長のところでの協定書の中でどういう方向になるか整理をしていただくということになりますので、それまでもう少し時間ございますので、この場でありましてかあるいは各市町村からご意見をいただいて私どもとしては整理をさせていただきたいというように思っております。

○**富塚陽一会長** いいですか。

○**富樫栄一委員** ただ今ランドセルの件出ましたけども、実はきのう羽黒町議会で合併調査特別委員会を開催いたしました。それで、先般3月7日、重要事務事業につい

てのそれぞれ7市町村の議会の意見というものをくみ上げるという、前回のこの協議会のお話ありましたので、私どもの議会もきのう開催いたしまして、それぞれ重要調整項目について意見を受けました。それで一応報告させていただきましても、まず最初に、第二小委員会の報告の中で管理番号032 020社会福祉協議会運営費等補助事業についてでありますけれども、この件につきましては、羽黒町といたしまして今ミニデイサービスを実施しております。これは大変好評で本当に高齢者の方々から好まれる事業でありますので、これは決して7市町村で実施しても悪くない事業であるというふうに思いますので、その辺も皆様方から十分協議していただきたいというふうに思いますし、また、管理番号081 1236のただ今鶴岡市の本城さんから出されました新入学のランドセル贈呈、やはりこれも保護者の負担軽減のみならず、いわゆる子供たちに同じものを与えると、7市町村一斉に、それも一つの教育的な効果になるのではないかとということで、これもぜひ堅持したいというふうな意見が出ましたし、また、第三小委員会の協議報告の中で管理番号041 2003水田農業構造改革対策配分、いわゆる転作関係でありますけれども、これも7市町村比較しますと約10%ほどの格差があるわけでありまして、5年で調整するという第三小委員会の調整案でありましたけれども、これも5年でなく同じ一市でありますので、やはり同じ自治体の中で10%の格差があるというのはちょっと不自然だろうと、そういった関係から5年ではちょっと長いということで、できるだけ早急に調整していただきたいという意見が出ましたし、それから管理番号072 126の市町村道認定基準及び認定、廃止事務について、これは鶴岡市では6メートル以上が、これが市の基準によって市道という扱いでありますけれども、なかなか町村になりますとそういった基準をクリアしない町道として認められている道路が多分にあるわけでありまして、町村道が将来市道になりますけれども、その辺も考慮していただきたいということと、管理番号073 257の集落排水使用料の決定事務でありますけれども、これは料金改定でありますけれども、やはり公共下水道と同様に資本費の導入を料金改定に組み入れるのかどうか、その辺のこれからの調整段階でありますけれども、こういった意見が出ましたので、お取り上げの上ご協議いただきたいというふうに思いますので、よろしくお願い申し上げます。

○**富塚陽一会長** ちょっと中身私ものみ込めませんので、これまで一応各専門小委員会では一定の結論が出たものと私は思っておりますので、その結論と著しく違うようなご提案であれば、委員会に一度返してご協議願って、その上であとここでやれというのであればここで取り計らうようにいたしますので、なお事務局も少し中身の検討はしてください。きょうのご発言を今までの報告と食い違っているかどうか点検して私に教えてくだされば、私は専門小委員会の委員長さんにその旨申し上げて再度ご協議願うとか、そういうことをさせていただきますので、いいでしょうか、それで。

○**富塚栄一委員** よろしく申し上げます。

○**富塚陽一会長** それでいいですか、委員長さんも。中身よくわからないので、私も。

○**本城昭一委員** ランドセルの問題については、委員会として結論を出すには大きすぎる問題だから、全体で検討してくださいと、こういうお願いをしたところです。

○**富塚陽一会長** さて、ランドセルのお話はここで、今のところ委員会としてはどうなっていたのですか、3年間様子見るということですか。

○**本城昭一委員** いやいや、意見の一致を見ないと。調整案に対して意見の一致を見ないと、こういう返答をしているのです。

○**富塚陽一会長** そういうことであれば、またそれなりの処理の仕方をさせて、意見が一致しませんでしたということで最終的な結論を協議会としても出せばいいわけですので…。

○**本城昭一委員** それでは困る。

○**富塚陽一会長** 意見が一致しなければどうにもならないし、そこは少しまた経過を見ますけれども、最終的に提案するときによって決まるわけですので、いずれはぎりぎりまた協議願って、それで最終的に議案として提案するときはどうするかということをもた皆さんのご意見を聞きながら最終的に決めさせていただきます。

ほかに何かないでしょうか。もう25分あるけれども、いいでしょうか、このぐらいで。よければ、これできょうの協議会は終了させていただきたいんですが、よろしいでしょうか。

(「はい。」という声あり)

○**富塚陽一会長** それでは、どうもありがとうございました。じゃ、事務局どうぞ。

4 閉 会(午後5時34分)

○**芳賀 肇事務局長** それでは、これをもちまして本日の合併協議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。